

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年1月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4790900015
法人名	医療法人 松風会
事業所名	グループホームひだまり
所在地	沖縄県名護市大西3丁目19番42号 (電話) 0980-52-7767

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成21年1月13日

【情報提供票より】(平成20年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 6月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人

(2) 建物概要

建物構造	RBC 造り	
	平屋 1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.6歳	最低	76歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立北部病院・金城歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、法人理事長(医師)が名護市内にグループホームが1箇所しかないことに鑑み、創設に向けたプロジェクトチームを立ち上げ、設立を迎えた。チームに建築士、設計士も加わったことで、建物はバリアフリーで広々として明るく、安全で住み心地のいい様々な工夫が施されている。管理者もプロジェクトの段階から関わっているが、当初の理念が機能していないことから、利用者や家族、職員の意見により実際の生活場面で活かされる理念に再構築した。その一連の活動は第5回沖縄県グループホーム大会で報告され、利用者の立場に立った理念は多くの同業者に共感と感銘を与えた。昨年末には思いがけない感染症(ノロウィルス)に見舞われ終息まで緊張が続いたが、関係機関との密な連携でタイムリーに対処できた。この貴重な体験を今後の運営、また同業者へ感染症予防への取り組みについて伝えていく等、生かしていくことに期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題として運営推進会議の実施と介護計画の見直しについての記録が挙がっていたが、前者は法人との調整で時間を要するも、平成20年8月に1回目の会議が開催された。また介護計画の見直しでは細かな気づきや状況の把握、工夫した内容等の実践記録が不十分であったが、職員で話し合いを重ね、実践したことが記録されるように改善された。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価について理解を深めるため、事前にスタッフ全員でガイドブックで勉強会を持ち、制度の意義を確認した。今回は諸般の事情もあり、自己評価のまめは管理者が行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は平成20年8月に1回目を開催、10月に2回目が実施された。委員は区長、区保健委員、民生委員、行政、利用者代表、家族代表で構成され、議題は“ひだまり”の生活状況、運営状況の説明、“ひだまり”からの課題提起等である。食事について高齢者の好きなメニュー、味付けなどの助言を受けたり、スムーズな運営がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃の家族面会時やケアプランの更新の際、また行事と合わせて実施している家族会の場で意見、不満、苦情がないか質問を工夫して聞きだしているが少ない。要望は可能な限り、迅速に対応する体制を整えている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運動会、夏祭り、敬老会等の地域行事での交流は定着している。近隣の保育園には散歩で立ち寄りたり、ごく自然な形で交流を継続している。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念では、利用者への対応について職員の方向性にバラツキがあったことから、スタッフの勉強会、グループワーク、利用者・家族へのアンケート・聞き取り調査を行い、新しい「ひだまり理念」をつくりあげた。キーワード①自立支援 ②尊厳を守る ③利用者本位 ④地域密着		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の重要性及び必要性を全職員が理解するとともに、利用者の立場に立った理念となっていることから、判断に迷う生活場面でも理念を共有し、生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会、夏祭り、敬老会等の地域行事への参加は定着している。また近くの保育園とは散歩で立ち寄りするなど、自然な形で交流を継続している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価で見出された課題として記録の方法を検討し改善した。諸般の事情もあり、今回は外部評価を受ける準備が不十分であった。	○	職員一人ひとりが年1回、しっかり自己評価を行うことで、日頃の介護の振り返り、気づきになることからぜひ全職員で取り組んでほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成20年8月から実施され、2ヶ月に1回の開催予定である。“ひだまり”の生活状況、運営状況の説明、課題提起等を議題にした。立ち上げは法人との調整で時間はかかったが、食事メニューについて助言を受けたり、スムーズな会議の運営がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は沖縄県認知症介護指導者の立場から、認知症介護実践研修の講師として市担当者との関わりはあるが、連携は少ない。今年は名護市の福祉プラン「あけみおプラン」策定の年となっていることから、地域密着型サービスについての提案など、機会を捉えて事業所の声を発信していくところである。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の報告が多いが、面会の少ない家族には電話での報告となる。また、月1回利用料請求時に法人全体の通信「とうげん」を同封し(グループホーム情報も掲載されている)送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事と合わせて実施している家族会の場で意見、要望等を聞くことが多い。意見箱は設置しているが、利用はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで職員の入れ代わりは極力行わない方針でやっているが、4人の異動・退職者がいた。利用者に早くなじんでもらえるようお別れ会・歓迎パーティーを行った。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して、法人が実施している研修へ参加している。新人職員に対しては、1週間のリーダーとペアでの介護実践(OJT)を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加盟していることから管理者、職員の交流はなされている。これまで市内の同業者の交流はなかったが、市担当課より呼びかけがあり、近々実現される予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	回数を限定することなく体験してもらう。本人に合わせた対応で、場になじんでもらえるよう環境設定に配慮している。また、入居後はしばらく落ち着かないことが多いので、頻繁に面会してもらえるよう、家族に協力依頼している。「ここに居ても家に帰れるんだ」という安心感を与えるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事づくり、洗濯物たたみ、居室の掃除等生活場面を共にしながら、調理、味つけの要領など教えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向がわかるよう努めているが、家族の情報を参考にするときもある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の希望を元に計画作成担当者と担当職員がカンファレンスを行っている。必要時、主治医の意見も確認し、自立支援に向けた介護計画を目指している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者が定期的にモニタリングを行い、介護計画が本人に適しているか確認している。また、心身の状況の変化に合わせて見直すとともに計画の変更を行い、家族へも報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、外泊の援助を必要時行っている。デイサービス、ショートステイも受け入れられるよう申請の予定であるが、あくまでも利用者の反応を重視して受け入れするかを決める意向である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診時には必要に応じて職員も同行し、医師からアドバイスを受ける等協力を得ている。また、必要時、往診対応もしてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在に至るまで重度化、終末期の対応はなかったが、入居時に家族の意向は確認している。できるだけ本人、家族の意向に沿っていけるよう法人理事長(医師)の意見も参考に、重度化、終末期に関するホームの指針づくりに向けて検討を繰り返している。	○	医療連携加算も整備されていることから、指針の完成が期待される。受け入れ体制に取り組みながら重度化、終末期の対応について職員も事前準備として学びを深めてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報保護の観点から、情報の守秘義務を徹底している。利用者のファイル等の個人情報は事務所に保管され、出入りは鍵を使用している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活のリズムを維持できるようにその時の気持ち、希望も確認しながら、それにそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を刻む利用者やホームの庭で作った野菜がメニューに登場するのが張り合いになっている利用者があるなど、食事を共に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2~3回の入浴者が多いが、利用者の希望に沿って時間も余裕をもって対応している。浴槽での入浴を好む利用者にも職員2人で対応するなど、楽しんでもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、調理、花木への散水、外出、イベントで歌ったり、談話室でおしゃべりしたり、図書室で好きな本を読んだりと利用者の生き生きする場面づくりを支援している。利用者が出来ることを職員が奪うことなく、簡単な作業でも感謝の気持ちを伝えることを重要視している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、自宅訪問、ドライブ、お出掛け外食(月1~2回)等、利用者の希望に沿って、ほぼ毎日、外出が行われ、利用者、家族から喜ばれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊のある利用者もいるが、外に出てもすぐには呼び止めずに見守って行動を観察し、利用者の求めていることを理解しようと努めている。正面玄関は音楽が流れるセンサーで人の出入りが分かるような仕組みになっているが、利用者の安全が確保できない状況下では、やむをえず施錠を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練はマニュアルに沿って、年2回実施され、避難経路、誘導等確認している。また、災害時には併設老人保健施設より応援が得られる体制はあるが、訓練は職員のみでの対応にとどまっている。	○	消防署や近隣住民の協力の下で避難訓練が実施されるよう、運営推進会議等で検討されるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士と連携してアドバイスを受けながら、メニューを作っている。食事摂取量は記録し、水分はいつでも補給できるように居室にも用意するなどしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場は広々として清潔であり、玄関先の季節の飾りつけの他、廊下の壁の所々に活動のスナップ写真、お習字等が掲示されている。スナップ写真を見ながら、活動時の会話も楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は明るく、それぞれに洗面台が設置され、洗面、手洗いと居室でゆっくりと行えるようになっている。家庭から持ち込んだ馴染みの家具等が使いやすいように配置されている。		